

## 令和元年度 横須賀美術館運営評価報告書について

横須賀美術館は、毎年度運営の評価を行っています。このたび、令和元年度の評価結果を報告書としてまとめました。

横須賀美術館の運営評価は、現在行っている活動を振り返り、適正に行われているかを自己点検することで課題や反省を自覚し、改善点の検討につなげるものです。

美術館は1年間の活動をまとめ、自らの評価（一次評価）を行います。一次評価を運営評価委員会に報告し、運営評価委員会は活動内容を市民目線でチェックし、二次評価を行います。併せて、美術館の業務改善、よりよい活動につなげていくことを目的として、改善点や活動の提言を行います。

評価全体の流れはPDCAサイクルによる改善を基本としています。個々の業務を計画(P: Plan)し、実行(D: Do)していき、その内容を評価(C: Check)し、これを改善(A: Action)につなげていきます。

毎年この活動を繰り返していくことで、よりよい横須賀美術館を目指していくものです。

### 1 評価項目

評価項目は美術館の設置目的に沿った「使命」と「使命」に基づいた8つの「目標」があり、それぞれの目標には、数的指標である「達成目標」と質的指標の「実施目標」を掲げ、これが具体的な評価をしていく以下の項目となります。

令和元年度の運営評価については、令和2年7月開催の令和元年第1回運営評価委員会（書面会議）で行いました。

#### I 美術を通じた交流を促進する

##### ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

達成目標	・年間観覧者数 100,000 人以上
実施目標	・様々な広報媒体の特性を生かして、効果的な広報活動を実施し、交流を促進する 他4項目

##### ② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。

達成目標	・市民ボランティア協働事業への参加者数延べ2,400人 (事業ごとに加算。登録者・一般参加者を総合して)
実施目標	・市民が美術館に親しみを感じ、訪れる機会をつくる 他1項目

## Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める

### ③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。

達成目標	・企画展の満足度 80%以上
実施目標	・幅広い興味に対応するようバランスをとりながら、年間6回（児童生徒造形作品展を含む）の企画展を開催する 他5項目

### ④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。

達成目標	・中学生以下の年間観覧者数 22,000 人
実施目標	・学校における造形教育の発表の場として、児童生徒造形作品展を実施する 他5項目

### ⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。

達成目標	・環境調査の実施（年2回） ・美術品評価委員会の開催（年1回）
実施目標	・収集方針に基づき、主体性を持って積極的な収集活動を行う 他3項目

## Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

### ⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。

達成目標	・館内アメニティ満足度 90%以上 ・スタッフ対応の満足度 80%以上
実施目標	・建築のイメージを損なわないよう、十分なメンテナンス、館内清掃を行う 他2項目

### ⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

達成目標	・福祉関連事業への参加者数延べ 360 人以上
実施目標	・年齢や障害の有無などにかかわらず、美術に親しんでもらう（環境づくりの）ための各種事業を行う 他2項目

### ⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。

達成目標	・電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近 3年間の平均値を目安とする
実施目標	・職員全てが費用対効果を常に意識し、事業に取り組む

## 2 横須賀美術館運営評価システムの概要

- (1) 自己点検の一次評価と、運営評価委員会による二次評価による評価。
- (2) 一年度の活動を翌年度に評価。
- (3) 3つの使命、8つの目標に基づく事業体系とした評価。
- (4) 目標ごとに達成目標（数的指標）と実施目標（質的指標）による評価。
- (5) 評価基準はS、A、B、C、Dの5段階で表示。

S：優れた成果を挙げている

A：目標を達成している

B：目標をほぼ達成している

C：目標にはほど遠い。より一層の努力を要する

D：努力が結果に結びついていない。方法そのものについて再検討を要する

二次評価を評価委員が行う際には、上記のほか、F：判定不能を設けています。

## 3 平成元年度の評価について

### 使命Ⅰ 美術を通じた交流を促進する

#### ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。

【達成目標】年間観覧者数 100,000 人以上 令和元年度実績 151,431 人

項目	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	S	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ感染拡大で休館や企画展の変更が余儀なくされながらも、151,431 人の観覧者数をあげたことは評価できる</li> <li>・市内在住者に限っても、対人口比 1 割の来館者数を得たという実績は高く評価する</li> </ul>
実施目標	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Sに近いA。SNS各種の特性に鑑みた情報発信の重要度が増していくと思われるので、ツイッターのフォロワーの増加等、取り組みの成果が出ている</li> <li>・多様な分野で情報発信していることに驚きました。しかし、伸びしろはあると思われる</li> </ul>

## ② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる

【達成目標】市民ボランティア協働事業への参加者数延べ2,400人

令和元年度実績 2,608人

項目	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	・コロナ感染症の影響でのギャラリートークボランティアの活動が一部変更を余儀なくされた中で、2608人の参加者をあげたことは評価する
実施目標	A	A	・with コロナの状況が続く中で、活動の在り方の研究とそれに基づく工夫が必要になる

## 使命Ⅱ 美術に対する親しみを深める

### ③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす

【達成目標】企画展の満足度80%以上 令和元年度実績 90.0%

項目	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	・観覧料の満足度が評価を下押ししている。この点は見直しにくい面もあるため、内容的にはSに近いA
実施目標	A	A	・コレクションを活かした「版画ワンダーワールド」展や地元アーティストを取り上げる「長沢明」展などの取り組みは、コロナ状況下、重要度を増していく

### ④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する

【達成目標】中学生以下の年間観覧者数22,000人 令和元年度実績 31,473人

項目	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	S	S	・中学生にとって美術を勉強する場になっている ・これからも中学生の感性を養う場として位置付けてもらえるようになれば美術館としての価値が高まる
実施目標	A	※S	・美術館の学校教育活動に対する内容としては、質的にも十分評価できる ・児童生徒や幼児の来館をうながす展覧会に企画、申し込み不要のWSの企画参加者増への臨機応変な対応などの工夫の結果が数値に表れた

※二次評価で評価が上がった理由

臨機応変な対応などの工夫の結果が数値に表れたと評価していただいたため。

⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する

【達成目標】環境調査の実施（年2回）、美術評価委員会の開催（年1回）

令和元年度実績 環境調査2回実施、美術品評価委員会はコロナ感染拡大により中止

項目	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	B	B	・コロナ感染拡大による美術品評価委員会の中止ということで、B評価で致し方ない。
実施目標	B	B	・美術品評価委員会の開催には至りませんでしたが、収集のための調査や活動は実施していると判断できる

使命Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する

⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する

【達成目標】館内アメニティ満足度 90%以上、スタッフ対応満足度 80%以上

令和元年度実績 館内アメニティ満足度 93.5%  
スタッフ対応満足度 88.1%

項目	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	A	A	・Sに近いA評価だと思われる
実施目標	A	A	

⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える

【達成目標】福祉関連事業への参加者数延べ360人以上

令和元年度実績 315人

項目	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	C	※B	・コロナ感染拡大の影響があるので、Aに近いBとする
実施目標	B	B	・実施目標に対して、着実に取り組んでいると判断する

※二次評価で評価が上がった理由

目標は達成できていないが、コロナ感染拡大による影響は評価から除外してもよいのではないかとのご意見をいただいたため。

⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する

【達成目標】電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を直近3年間の平均を目安とする

	R01 (目標)	R01 (実績)
総電気使用量 (kwh)	2,535,239	2,569,838
水道使用量 (m³)	4,546	4,908
事務用紙使用枚数 (枚)	246,533	240,000

項目	一次評価	二次評価	評価委員会コメント
達成目標	B	B	・気候が定まらずに使用量の変動するも考慮した計画が必要になる
実施目標	A	A	・展覧会関連出張の効率的な計画が必要だが、交渉等の相手の都合に左右される他律的要因もある

※詳細は別添「令和元年度 横須賀美術館 運営評価報告書」のとおり。

4 今回（令和元年度）評価時にいただいた意見等に対する今後の取り組み等について

使命Ⅰ 美術を通じた交流を促進する	
目標② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる	
【評価委員会からの意見等】	【今後の取り組み等】
・with コロナの状況が続く中で、活動の在り方の研究とそれに基づく工夫が必要になる	・with コロナの状況下でも、安心安全に実施できるイベントを検討する ・感染の危険性を最小限に抑えるための実施手段を検討する。
使命Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する	
目標⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理をする。	
【評価委員会からの意見等】	【今後の取り組み等】
・電気・水道等の使用量等について、「直近3年間の平均値を目安に」は、一つの達成目標にはなるが、気候が定まらずに使用料が変動することも考慮した計画が必要になる。	・より良い指標を検討する

＜参考＞

評価を受けての改善への取り組みについて

- (1) 前年度（平成 30 年度）評価時にいただいた意見等に対する令和元年度の取り組み等について

使命Ⅰ 美術を通じた交流を促進する	
目標① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる	
【評価委員会からの意見等】	【令和元年度の取り組み等】
・観覧者数の目標人数を上げるよう再検討してよいのではないか	令和 2 年度から観覧者数の目標人数を 100,000 人から 110,000 人とした

# 横須賀美術館運営評価委員会 委員名簿

(50 音順)

	氏 名	役職等	区分
委 員 長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授	学識経験者
委 員 (委員長職務 代理者)	菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事	関係団体の代表
委 員	柏木 智雄	横浜美術館副館長	社会教育関係者
委 員	三浦 匡	横須賀市立馬堀小学校校長	学校教育関係者
委 員	中村 泰久	市民委員	市民
委 員	小林 恵	市民委員	市民